

カラダ食のぐるり

からだ健康であるためには、呼吸、動き、想い、環境そして、食。それらがバランスいい状態で回っていること（『緑のセルフケア』博進堂/橋本俊彦・雅子著）

3. 11以降、福島においてはまさにここがむずかしくなりました。

福島市渡利にある花見山は、この季節になると、香り立つ繡梅からはじまり、マンサク、梅、レンギョウ、桜、菜の花、菖蒲など、次から次へと咲き乱れ、百花繚乱の風情を堪能させてくれる所です。そこで、手作りの弁当を食べるのであれば、それはもう、からだ中が笑いだすほどの健やかな瞬間であったにちがひありません。

今年もまた、その季節が訪れ、例年と同じ光景が広がり、行政が力を入れてるJR東日本デスティネーション・キャンペーンとやらの観光目玉の、花見山

です。その名も、「福満開、ふくのしま」。ホントですか? 気になり訪れました。駐車場から1キロも行かない地点です。周辺には飲食の店が立ち並んでいました。山菜も気になる季節です。美味しいだけでなく、春の山菜の独特の苦味が、冬に溜まる体毒を外にだす効果があることが知ると、なおさら手が出るものです。

しかし、最新の政府情報は、フキノトウ出荷制限を指示しています。

＜野生のフキノトウ＞

楢葉町 440 Bq/kg

葛尾村 120～290 Bq/kg

「そこで何たべろっていうんだ」一地元民の嘆きに胸つまり、息つまります。多くの県民の思いです。しかし、生き抜くための食卓です。

だから大事にしたいと、先日ある女性の会で、玄米食ワークショップを行いながら交流しました。次は塩麴の作り方も、ということに！現(うつつ)を抜かすので無く、自分の目の前を、どう具体的に変えていくかということでしょうか！



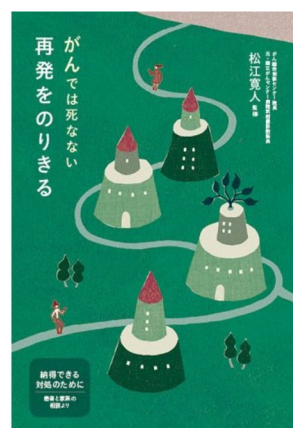
お知らせ

午後の診察時間が30分早くなりました
15:00～18:00→14:30～18:00



4月1日より
土日月木金
出しています。
よろしくおねがいします。

Dr. 布施



『がんでは死なない再発をのりきる』

保健同人社
監修 松江 寛人

医療側の都合にふりまわされないためのアドバイスも多く詰まっています。また再発がんにおける代表的な27の相談例を載せ、実際のケースをみながら、再発後のよりよい人生を送るための方法や考え方をご紹介します。

同人社編者ブログより

※当診療所でも扱っています

編集後記

「3・11」から3年、今年もきれいに桜が咲きました。何事も

なかったかのように……。

「帰還運動」が本格的に始まりました。ウソは隠せません。しかし、それと闘うものがないければ、ウソは「本当」にされていきます。「放射能の影響の疑い」はあるのです。私たちふくしま共同診療所は、そのことでウソはつけません。(え)



松江院長
本を出版しました

ふくしま共同診療所 Newsletter

ここから通信

第5号 季刊-春号-

診療時間：9：30-12：30/14：30-18：00

	日	月	火	水	木	金	土
午前	●	●	●	-	●	●	●
午後	●	-	●	-	●	●	●

診療科目：内科/放射線科/循環器科/リウマチ科

〒960-8068

福島市太田町20-7 佐周ビル 1階

TEL:024-573-9335 FAX:024-573-9380

安定ヨウ素剤入手できるようになりました
詳しくは2ページをご覧ください

ふくしま共同診療所の報告会が、2月2日いわき市、2月11日に郡山市で行われ、それぞれ約80名、120名の方が参加されました。開院から1年、診療所での甲状腺エコー検査の結果と福島県(県立医大)による県民健康管理調査の問題点等が報告されました。郡山では琉球大学名誉教授の矢ヶ崎克馬先生による講演、参加された方との質疑応答、個別の健康相談を行いました。

ここがおかしい！県の甲状腺検査の実態

- 県立医大の甲状腺検査結果の診断基準がおかしい！
- 小児甲状腺がんは、放射線被ばくと関係ないとする根拠がおかしい！
- 小児甲状腺がんが発見されるのは、検査をしたから(スクリーニング効果)だという理由がおかしい！
- 2014年4月以降、県立医大以外でも検査を実施するが、その検査体制がおかしい！

県民健康管理調査＜二次検査結果＞

(2/7 発表)

- ・ 甲状腺がんおよび疑いの子ども 75名
- ※ 1名は、手術後良性結節であったため、74名と報道されているものもあります
- ・ 手術を受けた子ども 34名
- ・ 年齢(震災当時) 8歳～16歳
- ・ 性別：男性28人、女性47人
- ・ 腫瘍径：5.2mm～40.5mm。

(12/31時点269,354人検査実施)

＜診療所の甲状腺エコー検査結果＞

18歳以下の検査人数 459人

(12年12月～13年11月)

- ・ 異常なし 199例 (43%)
 - ・ 有所見者 260例 (57%)
- | | |
|---------|------------------------|
| 結節 | 7例 |
| のう胞 | 244例 |
| 無数微小のう胞 | 105例 |
| | (無数/全症例23% 無数/全のう胞43%) |
| 不均一 | 9例 |

ふくしま共同診療所の見解

- ・ 開院後、18歳以下の約500名の甲状腺エコー検査を実施してきた。約6割の患者さんに異常がある。
- ・ A2判定や蜂の巣状の無数微小のう胞は、県の二次検査の対象外。県の検査は、20歳まで2年ごと、それ以降は5年ごとの検査になるが、当診療所は、チェルノブイリと同様に半年ごとの検査を勧めている。
- ・ 5.2mmのがんが見つかった。5mm以内の結節でも、定期的な経過観察が必要である。B判定の子どもへの再検査の連絡が半年以上もなかった例もある。チェルノブイリでは、小児甲状腺がんは進行が早く、肺やリンパに転移する率が高いと言われている。
- ・ これまで、小児甲状腺がんは100万人に1人が2人の発生率だと言われていた。福島県では、約26万人が検査を受け、甲状腺がん(疑い含める)75人と診断された。約3千6百人に1人となり、明らかに異常な数である。(B判定1,795人、C判定1人、2013.12.31現在)
- ・ 放射線による健康被害は時間の経過とともに現れる。白血病、心臓など、その他いろいろな症状がでる。継続した検査による早期発見、早期治療しかない。
- ・ 「放射能は危険なもの」であり、保護者が子どもたちを心配するのは当然である。大人も含めた定期的な健康チェックは、本来、国が体制を整えてやるべき。
- ・ 4月から「本格検査」が始まったが、県は医療機関に、その場での結果説明を禁止している(4月末現在)。「これでは、医療行為に対する責任は果たせない」と、当院は県に異議を申し出ている。
- ・ 水俣病は50年たっても診断基準も救う人もきまっていない。我々は覚悟して、放射線による健康被害を認めない国や東電と闘わなければだめ。目をつぶってはいけません。